

第三分科会まとめ

テーマ

「遠忌事業と教化活動の 関連について」

小 倉 光 雄

I 宗門の遠忌事業について

はじめに、七百遠忌奉行事務局次長星光諭師より「遠忌事業の計画と現況について」詳細にわたる説明をいただき、参加者一同事業についての理解を深めた。

その理解の上に立って、(1)教宣部門、(2)中央大会、(3)総合財団、の三点について話し合った。

(1) 教宣部門

(1) 先づ基本理念として、中央だけの事業に終わらせることなく、内外の布教に直結した事業を行うべきである。

すなわち、内とは地方末端の寺院であり、外と

は広く一般社会大衆のことである。この遠忌事業によつて、内には地方寺院が盛りあがるような、各寺院と結びついた事業でなければならぬし、他方、外には社会全般に貢献し、アピールしていく、そして一般大衆をも導びいていけるような事業でなければならぬ。

(2) その方策として、

伝道車布教の活発化、テレフォン説教十宗務区に設置すべし、テレビ、ラジオ、の活用等があげられた。

殊に、テレフォン説教について費用の関係で地方設置が困難とされているが、山口県において個人で行なっている寺もあるという例があげられ、宗務院と各宗務所長とが協力し合えば不可能なことではない。要は当局の姿勢いかんである。又、ラジオについても、せめて御正當の五十六年には五分間でもよいから年間通じて放送するぐらいの意気込みがほしい、という強い意見が出された。

(3) そして、その具体的内容については、

パンフレットとして、
A、日蓮聖人、並びに日蓮宗のことがよくわかる

るものが多い。

B、前項と関連するが、日蓮宗とはどういう宗団なのか、どういふ良さがあるのか、何を目指しているのかそういう点を具体的に示したものが欲しい。

C、企画としては、「七百遠忌早わかり」はよいと思うが、内容の面で第一号という関係からか、お寺が檀信徒にPRするためのものになっているので、次号からは檀信徒教化になる内容をもってシリーズで発行するとよい。

又、親は大体理解しているので子供向けに童話などもよい。

D、一般大衆向けとしては、現代日本がかかえている問題、幼児のしつけ、青少年の非行、セックス問題、等について、日蓮聖人はどう教えているか、現代的にそしやくしたものを発行する必要がある。

次にポスター関係であるが、

A、現在配布されているものは大寺院向きのものなので、もっと小さなお堂でもはれるような小型

のものがほしい。

B、七百遠忌はお寺だけの行事ではないのだから一般家庭用のものを考えてもよいのではないか。

C、作製にあたっては、宗門内に才能のある人は多いのだから公募したらよい。

D、宗内にとどまることなく懸賞金つきで一般から公募してはどうか、マスコミに乗ってそれだけで大きなPRになると思う。

等の意見が出された。

(2) 中央大会

(1) 基本的あり方として、参加者に「よかった」という感銘を与えることのできるような大会にしたい、先に沖繩で営なまれた慰霊祭は参加者がみんな感激していた。やればできるのだから英知をしぼって考えるべきだ。

(2) そのための方針として、参加者が単なるお客ではなく共に参加のできる、全員が主役になるような持ち方が必要である。

(3) 会場には武道館が予定されているようであるが、暖冷房に照明つきの室内では本当の感激がわ

いてこなし、お互いに汗を流し合ってこそ感激がわいてくる。国立競技場のような野外で行った方がよい。

(一) 武道館否定説に關連するが、一ヶ寺四人や五人の参加者では、参加する寺としての盛り上がりは欠けてしまう。人員は無制限にしてできるだけ多く参加させるべきである。

(二) 最後に、なによりも大切なことは、引卒する教師自身の姿勢である。参加できることに自分自身が「ありがたい」という気持をもって檀信徒を導くべきである。

◎ 報恩巡拝

大会参加と關連を持つものとして、まだ決定はしていないが、単なる参拝ではなく研修、修行、を含めたものとして『報恩巡拝延池結集』なるものが事務局では考えられている。という発題に対して、大変結構なことなので是非具体化してほしい、これにはこそぞって協力していこう。という意見が多かった。

◎ 全国縦断唱題行進

交通問題等も含め大きな問題がある事なので日青主体に全宗門的に取り組んでほしい。

◎ 全国教師総結集大会

昭和四十九年の教研会議で要望が確認された事柄であるが、明年は教研会議の新たな出発と、七百遠忌御正當を目的にひかえて一大センセイションをまきおこす上からも明年、予算等の關係でやむを得ない場合は明後年、身延山において五百名の規模をもって開催する必要がある。この件は第三分科会の決議（決議文後記）として全体會議にばかり、当局に強く要望しよう。

(3) 総合財団

事務局においてもまだ具体化されていないことと、参加者の認識も浅いため、細目についての話し合いはできなかつたが、基本的姿勢として、伝道宗門としてのわが宗の立場と七百遠忌は報恩の布教、教化が中心である。その基本を忘れずに将来共布教助成に中心を置くべきである、という結論が出された。

II 各寺院各地区の遠忌事業

発題者中村潤一師の「私の寺の遠忌計画」

(イ) 庫裡の建築

(ロ) 教箋の発行。費用はその年の年回にあたる仏様の供養のためということで施主より功德主をつのっている。

(ハ) 林間学校の開設。子供を集めると共に手伝いとして青年、子供達の母親を利用、これによって青年会、婦人会の組織化を考えている。〓檀信徒組織の再編成。

(ニ) 講演会の開催。寺を開放する意味から一般向けとして毎年一回講演会を行なっている。費用もかかるのでそのための後援会もできている。

以上のようなユニークな発題のあと、各寺院、並びに宗務所管区における遠忌事業について、参加者全員の発表があり、

(1) 宗務所管区としては、まだ四年先ということから事業に取り組んでいるところは少ないようであるが、その中で、滋賀県では、日青によつて各組寺（五ブロック）ごとに合同で月一回一万遍唱題行が早くも実施されている。さらに、岩手県に

においては家族ぐるみの唱題運動を提唱し、一億遍唱題運動が立案されている。

(2) 各寺院における事業については、物的なものと精神的なものに分けると総体的にいつて、建築等物的なものが多く、精神面ではそれぞれにパンフ等を発行し努力はしているが一歩リードされている感じである。

しかし、建築もそれなりの意義がある。自身の外しよであり、祖師を安置する場を立派にする事は、そのこと自体報恩行である。又、そのことによつて檀信徒の意気があり、団結がかたまる。一方、地域に対しても無言の布教となる。という体験などがられた。

その他特質すべきものとして、

(A) 滋賀の岩井師が二十年前より行なっている檀信徒各家におけるお会式、これには各家とも檀信徒をはじめとして、親類縁者、近親の人々が集まるが、参加者の大半が他宗徒で、非常によい布教の場となっている。

(B) 七百遠忌に向けて、日蓮宗新聞の拡張運動を

盛りあげよう。という要望が出された。

決 議 文

第十回中央教化研究会議において、私たちは「報恩のための教化活動」について話し合った。その結果、七百遠忌御正當を目前にして、尚一層の充実と教化研究会議の新たな出発を期し、明五十三年、おそくも五十四年には、身延山において教師結集を開催するよう当局に要望する。

右決議する。

昭和五十二年九月八日

第十回中央教化研究会議
(第三分科会)